

# 3 - 2 研究授業 (K先生)

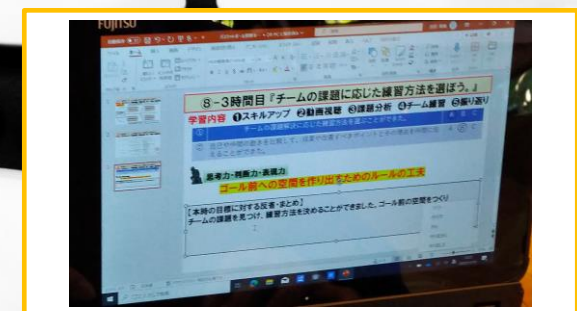
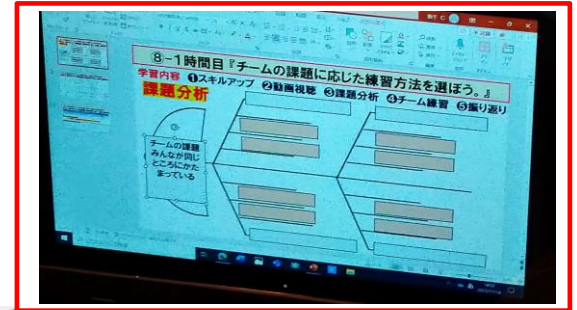
令和5年11月14日 (火)

研究主題 **すべての生徒が「分かる・できる」と実感できる授業の構築**  
 ~ 学力向上をめざしたICTの効果的な活用を通して ~

|        | チェックポイント   | 指導方法の工夫・手立て   | 成果と課題 |
|--------|--|---|-------|
| 主体的な学び | <p>①本時学習に興味や関心をもっているか。<br/>                     (「〇〇したい」) 解決すべき課題を自分ごととしてとらえることができたか。<br/>                     ②その活動をするのがどんな意義や意味があるのかを見通して共有できているか。<br/>                     ③目的に照らして活動を振り返りつつ自ら選択・試行錯誤すること</p>     | <p>「思考ツール」の活用意図と活用方法を伝える(教える)<br/>                     活用することで、どのようなメリットがあるのかを理解させているか? → <b>主体的な学びへとつなげていく</b></p>                                     |       |
| 対話的な学び | <p>①課題解決に向けて、自分ごととしてできているか。(考<br/>                     ②他と協働する必要性を<br/>                     ③どのように考えたり話<br/>                     よいかを見通すことが<br/>                     合いの形態や方法、I<br/>                     思考ツール等)</p> | <p>「考える材料」の工夫とICT<br/>                     考える材料をもとに自分の考えの根拠を明確にして、具体的に説明できる場を設定する<br/>                     → <b>ICTを効果的に活用する場面設定</b></p>               |       |
| 深い学び   | <p>①他者の考えを関連付けたり加味したりして、考えを明確にしたり深めたりすることができているか。<br/>                     ②「知っている・できる→分かる→」の方法で学びを進めているか。<br/>                     ③本時の学び(内容・方法等)を自分なりの言葉で表現することができるか。</p>  | <p>「個の課題と全体の課題との相関」のあり方<br/>                     どのような個の学びから全体の課題を解決していくのか?<br/>                     全体の課題解決から個の課題を解決する学びを实践するのか? → <b>意図的な授業設計</b></p> |       |
| 学習集団   | <p>①教師や他の生徒との親和的な人間関係があり、学習や対人関係のルールやマナーが定着しているか。</p>  | <p>「聴く」、「聴かせる」、「活動する」などを明確にした活動</p>   |       |

往  
還

往  
還



## 3 - 2 研究授業 (K先生)

令和5年11月14日(火)

研究主題 すべての生徒が「分かる・できる」と実感できる授業の構築  
～ 学力向上をめざしたICTの効果的な活用を通して ～

ひ

- 思考ツールを活用した授業は生徒の思考を整理する上でも効果的であり、学習の見通しを持たせる手段としては効果的である。
- 自チームの試合を動画で確認して、班員で分析をすることで、解決すべき課題を共有できたことで本時の学習のゴールイメージをもてた授業の導入であった。
- △ 課題を見つける視点（ディフェンスやオフェンスの両面）を与えて課題を解決できるようにすると今後の授業につながっていく。

な

- 個人思考の時間を十分に確保しており、的確な指示や助言を行っていた点が評価できる。
- ICTを活用することでしかできない授業を設計しており、生徒の対話的な学びを具現化する手立てとして参考になる授業である。
- △ 個別の課題を互いに助言や動画分析などを用いて解決するといった方法などについても研究を深める必要がある。

た

- 上述した①と②との往還がなされており、生徒が深い学びを得る授業設計である。
- 振り返りについても各自が本時の目標をしっかりと理解しており、「よかった点」や「改善すべき点」にまで意識ができていた模範的な授業である。
- △ 課題を解決するためにより深い学びを実現するための「主体的」、「対話的」な学びをさらに充実させるための意図的な授業設計を図っていく必要がある。

所感

- 技能が高くない生徒に対しても互いに温かい声かけができており、全体的に落ち着いた雰囲気での授業が展開されていた。日頃の授業の成果であると高く評価できる。本校の研究の視点から言うと、生徒はもちろん「教師のICT機器の活用」に高い技能が見られ、その技能を校内で共有していくことが重要である。DX班との連携を図っていく必要がある。
- △ 話し合いの時間やタブレットを操作する時間が確保されていた分、知識的な部分での個人や班の課題は解決された面も多いが、技能面での解決には不十分さが残った。本時が1単位時間の設定でよかったのかについては十分検討する余地がある。